

「友松」の変遷 II

2010.10.25 発行

シリーズ 2-3

「友松」 31号

友松會報 昭和26年10月20日

所感

会長 小林梅茂

「友松」の歴史は、創立以来、常に「友松」の発展と、友松人の幸福のために、努力を怠らなかつた。その功績は、今日に至るまで、依然として、友松人の心に残つてゐる。そして、今日、戦後六年経ち、世の中は一応落ち着いてきた。その中で、友松人の幸福のために、努力を怠らなかつた。その功績は、今日に至るまで、依然として、友松人の心に残つてゐる。そして、今日、戦後六年経ち、世の中は一応落ち着いてきた。その中で、友松人の幸福のために、努力を怠らなかつた。その功績は、今日に至るまで、依然として、友松人の心に残つてゐる。

御挨拶

横浜国立大学長
本会顧問 富山 保

富山君、ご挨拶を申し上げます。本会創立以来、常に「友松」の発展と、友松人の幸福のために、努力を怠らなかつた。その功績は、今日に至るまで、依然として、友松人の心に残つてゐる。そして、今日、戦後六年経ち、世の中は一応落ち着いてきた。その中で、友松人の幸福のために、努力を怠らなかつた。その功績は、今日に至るまで、依然として、友松人の心に残つてゐる。

友松會總會

日時 十一月二十五日(日)

場所 江の島・さぬきや

費用 会員一人金三百円
(不足分は本会負担の範囲内)

出席申込 十一月十五日までに本部宛
申込された

大第 師範学校時代の恩恵に感謝
選考委員 友松 保

見物 ① 臨時特別観覧・平和塔・植物園
② 臨時特別観覧・平和塔・植物園
③ 臨時特別観覧・平和塔・植物園

注意 ① 臨時特別観覧・平和塔・植物園
② 臨時特別観覧・平和塔・植物園
③ 臨時特別観覧・平和塔・植物園

訪問記

友松會總會の訪問記

友松會總會の訪問記

友松會總會の訪問記

母校としての友松會

友松會の母校としての役割

友松會の母校としての役割

友松會の母校としての役割

祝友松

祝友松

祝友松

祝友松

会長所感は「待望の講和条約安全保障条約の調印、実質的な戦争の終結。ともあれ明朗な喜ばしい秋と言わねばならないのに何となく重苦しい感じに充たされるのは何故だろうか」という記述ではじまっている。そして、生活の立て直し、教育界の責任の重大さ、教組・PTAの在り方等にふれている。

戦後6年経ち、世の中は一応落ち着いてきた様相を示しているようで、大学のある鎌倉は、夏になると多くの海水浴客で海岸は一杯になったと書かれている。特に、カーニバルのビックパレードの時は賑やかで、「驚異的な人出があった」と新聞報道されたそうである。

当時の横浜国立大学学芸学部は、鎌倉校舎・立野分校・農学教室の3ヶ所に分かれていたが、敷地面積が49,523坪、校舎の延べ坪8,648坪に達していた。

入学定員と受験競争倍率 (S26年現在)

* 入学定員	
4年課程	270名
2年課程	340名
* 受験倍率	
2年課程	1.6倍
4年課程	2.4倍

「友松」31号の記事、「私の長寿法」(小林錠之助氏)、「在職二十年間の古き思出」(見山ミナ氏)、「水着とやぐら」(吉原敏雄氏)等は、読みごたえのあるものである。

その他にも、詩苑、和歌と句、偶詠(物故会員の霊を弔う)、感想(会員の声)等々は、時代を反映した作品や文章で素晴らしい。学芸学部後援資金寄付の累計金額が597,397円になっているのも驚きである。

友松會報 昭和26年10月20日

私長寿法

小林梅茂

私長寿法

小林梅茂

在職二十年間の古き思出

見山ミナ

在職二十年間の古き思出

見山ミナ